

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 図書館

会議の名称	平成30年度第1回図書館協議会		
開催日時	平成30年6月13日(水) 午後3時00分～5時00分		
開催場所	茅野市図書館 2階会議室		
出席者	矢崎委員長、牛山委員、池田委員、田村委員、両角委員、原委員、山田教育長、平出生涯学習部長、藤森生涯学習課長、辻井図書館長、濱主事		
欠席者	岩崎副委員長、大石委員、三代沢委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
辻井図書館長	1 開会		
山田教育長	2 教育長あいさつ 昨年度から引き続きの方、よろしくお願ひいたします。今年度から新たに委嘱された方、本当にご大変だと思ひますがよろしくお願ひいたします。尖石縄文文化賞の審査員長の小林達雄先生が書かれた『縄文の思考』という本の中で、縄文人はイヌを食べたかという内容がある。小林先生はいっさい食べなかったという説を取っている。そう考えたときに、イヌを平等なものとして扱っていたから、食べずにお墓に埋めたりと大事にしていたということに頷けた。今でいう“共生”という考え方の原点が縄文人にはあったんじゃないかと思ひました。今の時代、強い者じゃないと生きられないという社会の構造はあると思ひます。縄文時代の人たちの生活の中にもう一度“共生”ということの意味を見出していくことが必要だと思ひます。		
	3 委嘱状の交付		
	4 自己紹介		
	5 審議会の公開について		
	6 議題		
矢崎委員長	(1) 平成30年度茅野市図書館運営について レファレンスについて。Web上にも登録はしてあるのか。		
辻井図書館長	すわズラ～(諏訪地域公共図書館情報ネットワーク)に「レファレンス」という項目がある。そこに諏訪地域全体の図書館で調査したものが、この本にこういうことが載っていますということを開示している。茅野市図書館については国立国会図書館のレファレンスデータベースの協力館の方にも前から入っている。最近そちらへの更新は滞っている状態だが、何件か載せている。		

矢崎委員長	すわズラ～には諏訪地域全体で何件ぐらい登録しているか。
辻井図書館長	はっきりとした数字は今は出てこないが、何十件ぐらいかと思う。諏訪地域内で持っている資料で調べられたものを主として載せている。
矢崎委員長	それはパスファインダーとはちがうのか。
辻井図書館長	パスファインダーとは少しちがう。パスファインダーとは何を調べるときにどういう調べ方があるかの手順を紹介したもの。例えば、郷土について調べるならこういう参考資料をまず当たりましょう。というような紹介をしたものになる。パスファインダーは他にも展示をした際に、こういう本を展示しましたと、紹介したのもパスファインダーになるので今後は展示をしたときにもチラシを作りながらいっしょにパスファインダーも作っていければと考えている。
矢崎委員長	市民の方々はパスファインダーがあるということは、知っているか。
辻井図書館長	パスファインダーの調べものについては、タッチパネルの横にチラシという形で見出しをつけて置いている。
両角委員	前からあったものなのか。
辻井図書館長	一昨年に作成をしたが、どういうものを作るかが難しい。
両角委員	今年度は大人向け図書館案内という講座が予定されているため、そういったところで紹介してみたらいいと思う。
辻井図書館長	そちらの講座は主に、館内のどの場所にどんな資料がありますということや、タッチパネルは登録をすれば返却日の延長ができる、予約がかけられるという便利なシステムであるが、使い方についての周知が難しい。もっと利用していただくために講座を計画している。
矢崎委員長	経緯を説明させていただくと、図書館をリニューアルしたときに「本の図書館から情報の図書館に」という流れを作った。その中で図書館を単に本の貸す場所ではなくて、市民の困ったことに答えられるレファレンスを強化しましょう。ということでカウンターにレファレン用のデスクを作ったりした。調べものときにはこういう手順でやればいいのかというパスを見つける場所と探し方を見つける方法を充実させていきたいと思います。という動きがあったがなかなかできなかった。徐々に充実してきたというところでまだ途上段階であると思う。
田村委員	タッチパネルは以前からあるのか。
矢崎委員長	以前からあるが、ソフト自体をリニューアルして充実したという段階であ

る。そのような流れの中で、パスファインダー、レファレンスを充実していく、国立国会図書館の中で全国の図書館と連携してレファレンスを充実させていきたいと思います。という動きがある。茅野市図書館もデータベースに入っているが、なかなか更新ができていない状況だということ。

辻井図書館長

以前は国立国会図書館だけであったが、システムでできることが増えたため諏訪地域独自のレファレンスの項目ができて、2カ所へアップをしなければいけなくなった。諏訪地域のほうは更新しても、国立国会図書館の方はまた別の機会やらなくてはいけないので、そちらが滞ってしまっているといった状態になってしまっている。とりあえずは両方に同じだけ更新していけるようにしたいとは考えている。

平出生涯学習部長

議員の方から図書館について一般質問を受けた。その要旨だけ述べさせていただきたい。活字離れの中で図書館の役目は大きい。諏訪東京理科大学が公立化したのに伴い、市の拠点として図書館との連携や、図書館の現状を確認したいということで、6つの質問があった。①図書館利用の現状について②図書館の安全対策について③図書館の使命について④公立諏訪東京理科大学との諏訪地域公共図書館情報ネットワークのことについて⑤庁舎内の各部署にある図書について⑥特色ある図書館とはどのような図書館かである。これらの答えについて述べさせていただく。

①図書館利用の現状について

本の貸出を行っている人たちは、図書館本館・10地区の分室・市民館図書室の12施設がある。平成27年度の利用者は71,987人、貸出冊数は278,376冊だった。平成28年度は利用者65,850人、貸出冊数は263,177冊だった。平成29年度は利用者70,268人、貸出冊数は273,600冊であった。蔵書数については平成29年度226,150冊、資料購入費について平成29年度9,500,000円計上している。すわズラ～の登録者数は7,704人、茅野市の登録者数は2,088人であり、諏訪地域内では最多である。すわズラ～を利用して書名や著者名、キーワードで図書を検索できる。また図書の分類方法は日本10進分類法に従って行っている。特に情報・法律・医学書については、最新の情報が提供できるように心掛けている。

②安全性対策について

災害時の利用者の対応については、図書館独自でマニュアルを作成している。年一回は災害時に避難誘導確認や、消火訓練、図書館に設置してあるAEDを使用した消防署職員による訓練も行っている。書架については、転倒しにくい形の書架の導入、固定等の処置をしている。避難経路のガラスには飛散防止フィルムを貼ったり、カーテンは防火対策されたものを使用している。

③図書館の使命について

環境の整備ということで新聞コーナーが暗いと以前指摘があったけれども、図書館では推奨照度である500ルクスを目指して明るさを整えている。また足音がうるさいという指摘もあったということで、一時は全面じゅうたん貼りを検討したが、自由広場が近い、館内へのアプローチが短いという中で泥が落とせないということ、清掃費用がかかることなどから採用しなかった経過がある。司書資格についてということで、本館職員は11名

、そのうちの7人が資格保有者である。職員の情報リテラシー教育については、県立図書館等の主催する講座に出席して、情報活用能力をあげ市民のサービス向上に努める。

④公立諏訪東京理科大学との諏訪地域公共図書館情報ネットワークのことについて

公立諏訪東京理科大学の図書館の蔵書数は約90,360冊ある。その大部分は学生や、教職員の学習等に必要な専門図書になっている。大学図書館に所蔵されている図書は公共図書館とは役割がちがって、大学内部の教育・研究に活用される図書を常備していくということで、性格は異なる。平成28年度では、学内利用者数が21,143人、一般利用者数は640人であった。全体の2.9%が一般の人が利用していた。登録者数は学内の学生が1,141人、一般の方は115人であった。1割が一般の方の登録。公立図書館との連携については現行の大学図書館のシステムを公立図書館のシステムへと統一する必要があることから、システム移行に費用がかかるという中で図書カードの統一は今は難しい。茅野市図書館と大学図書館との連携により、図書館双方の図書の貸借は可能である。施設間の協力の下で利用者へのサービス向上を図っていききたい。

⑤庁舎内の各部署にある図書について

業務上必要となる図書のうち、図書館に備えない図書については予算の範囲内で購入している。

⑥特色ある図書館とはどのような図書館か

本の図書館から情報の図書館へという流れを定着させるという目標を掲げてきた。市民が物事を判断するために必要な情報・技術・知識を積極的に外に呈出することがあるべき姿、市民の私的欲求に応えることが果たすべき役割と掲げ、情報の図書館に変えていこうと現在も取り組んでいる。昨年度から子ども読書活動応援センターを図書館内に設置した。設置目的は学校地域の読書ボランティアの活動を応援すること、読書の森読みむちのなどの連携した茅野市読書活動推進計画に基づいた公民協働で事業推進すること。調べ学習コンクールの実施、応援など相互が連携して協力し合っている。また地域に関係する資料、地域出身者の著作や出版物は積極的に収集し、ロビー展示などを行うようにしている。その他、図書館協議会を設置し市民からの意見をお聞きしながら、図書館運営を行っている。今後も知の拠点として地域に愛される図書館を目指していききたい。というようなことをお答えさせていただいた。

矢崎委員長

分室の役割を説明していただきたい。

辻井図書館長

宮川分室は中央公民館の中、ちの分室は家庭教育センターの中、それ以外の分室は各地区コミュニティセンターの中の部屋1室を図書館分室として開館している。もともと図書館の分室として以前から機能はあったが、地区こども館を併設という形になり、現在は地区こども館図書館分室両方が同じ部屋で同じ職員が運営している。本については子どもの身近なところに本に触れ合える環境を。ということで始まっているので児童書を主として置いている。したがって利用者については、ほとんどが12歳未満のお子さん。家族で来てもお子さんの本を借りて行かれる方が多い。蔵書の冊数

	<p>については、本館と分室を含めて206,291冊であり、そのうち本館にある冊数は167,095冊であり、50,000冊程度が分室・市民館図書室の蔵書冊数になる。</p>
矢崎委員長	<p>160,000冊のうち開架に出ているのはどのぐらいか。</p>
辻井図書館長	<p>開架に出ているのは116,664冊である。あとは3つの書庫にそれぞれしまっている状態である。</p>
田村委員	<p>10地区の分室では、本館のような資料の検索ができるタブレットのようなものはあるのか。</p>
辻井図書館長	<p>貸出・返却などで使う図書館業務専用の端末は1台あるが、それは開放しているわけではなく、図書館業務で職員が使っている。</p>
田村委員	<p>将来タブレットのようなものが使えるようにならないか。</p>
辻井図書館長	<p>将来的にそのようなものに需要があるということになれば、タッチパネルを置くようになるかと思う。またすわズラ～のホームページは公開しており資料の検索もできるようになっているのでお手持ちのスマホなどから調べることはできる状態になっている。</p>
両角委員	<p>分館の利用者で大人の方は少ないのか。</p>
辻井図書館長	<p>少ない。</p>
両角委員	<p>大人向けの本はたくさんあるのか。</p>
辻井図書館長	<p>大人向けの本は少なく、部屋が狭く子どもの身近に本を。というところからスタートしているため、学校図書館には置いていない本を中心に蔵書している。</p>
田村委員	<p>地域の方がどんどん学校に来て、生徒たちと交流を持って考えるといろんな図書があった方が利用が増えると思う。</p>
辻井図書館長	<p>地区によっては年齢の比率がちがうので徐々にそちらに合わせていくようにはなると思う。</p>
山田教育長	<p>少子高齢化など人口構成が変わっていく中で、図書館を含めた知のあり方がかなり変わっていくように思う。きちんと見据えて大きい目で見たいといけない。</p>
矢崎委員長	<p>各図書館もいろんな試行錯誤をしている。ネットで見ると各市町村の図書館協議会の議事録が見られる。顧客満足度調査をしているところなどもあるので、時間があればどんな活動をしているか見てほしい。利用者数とは何を持って利用者数としているのか。</p>

辻井図書館長	貸出冊数である。
矢崎委員長	茅野市図書館は入口にカウンターを設置している。本を借りないけれど図書館を訪れている人は増えている。
平出生涯学習部長	1日だとだいたい500人ぐらいが出入りをしている。本を借りて行く人はそのうちの4割ぐらい。6割が本は借りないけど出入りしている人になる。
矢崎委員長	図書館に来ている人が多いということは大事なことであると思う。むしろそこをアピールしてほしい。
両角委員	平均何冊ぐらい借りていくのか。1、2冊という人は少ないか。
辻井図書館長	1、2冊借りていく方は少ない。児童書については10冊目いっぱい借りていかれる方が多い。20代～40代ぐらいまでの方は、来館される回数に限られるため、10冊目いっぱい借りていかれる方は多い。50代以降の方は頻繁に来られるので、読み終わったら次というように5冊未満の方が多と思う。
田村委員	市民館図書室の利用者は学生が非常に多いように感じる。あれだけのスペースしかないが、立地場所が良いためかと感じる。
辻井図書館長	お迎え待ちに都合がよいためかと思う。
原委員	本の図書館から情報の図書館にしたのであれば、入館者数というのはなおさら必要になってくると思う。貸出を増やすということはどこの図書館でもすでに行っていることだと思うため、プラスアルファ入館者数ということでアピールしていけばどうかと考える。
矢崎委員長	市民の居場所づくりということも図書館の大事な役割かと思う。
両角委員	駐車場は足りているか。
辻井図書館長	図書館利用者的には大きな行事のとき以外は足りている状況である。ただ、自由広場の利用があるときには不足するような感じである。
藤森生涯学習課長	<p>(2) その他</p> <p>指定管理者について。茅野市図書館の運営を直営か指定管理者にするのか検討していく必要があるという話があった。図書館の今後については検討といったところへ来ている段階。なぜ検討かということ、図書館単体であっていいのかということ、現在の建物は昭和55年に建てた物であり、老朽化という問題がある。そういったことから施設の在り方については、移転や</p>

	<p>複合化などそういったものを含めて検討した方がいいという評価を受けた。管理・運営面については、現行の直営方式と指定管理について、費用と効果という観点から民間の活用についても検討してみてもいいという意見もある。現在のこの場所で運営している間の図書館については、指定管理ということも検討はしたが、直営の方がいいだろうという判断をさせていただいて、将来的に移転・複合化そういうときになった場合には、そのようなことも見据えて考えていく必要がある。その辺について今回の機会を使って、みなさんの声を聞かせていただきたい。</p>
矢崎委員長	<p>追い追い出てくる問題点のひとつとして、レファレンスに取り組む職員が長く図書館にいられない。スキルの蓄積ができていけないというのが現状。それを解決できるなら、指定管理者も悪くないという思いも一部あった。何が市民サービスになるのかわかった職員が長くいられる状態を確保していきたいと思ってきた。指定管理者が悪いというのはどういうことが悪いのか。</p>
平出生涯学習部長	<p>指定管理者も3年や5年で変わる。よって基本的に継続性はない。また地域の連携がなかなか結びつかない。ワーキングプアの温床になると言われており、働く人たちの営利を追求できるような仕事ではないため、そこに雇われる職員も十分な賃金がもらえないのでは。とも言われている。指定管理者の収益を何で求めていくのか。茅野市の行政側で求めている図書館活動と同じものになっていくのか。例えば図書館とレストランを併設するとか、本来の図書館業務じゃないものと結びつけていくのではないかなどがある。また災害対応は本当にできるのか。このような問題点がある。</p>
矢崎委員長	<p>情報の図書館ということ念頭に考えると何か人材として確保できるものをやっつけていかないと、そのような問題は解決しないと思う。市民サービスとしてどうするのかと思う。</p>
牛山委員	<p>できれば今の状態がいいのではと思う。ただし市民サービスは今まで以上にやっつけていかなくてはいけない。図書館は利用する方はとても利用すると思うが、興味の向かない方もたくさんいると思う。そういうところをどのようにしていくのかということもあると思う。</p>
藤森生涯学習課長	<p>参考までに長野県内にはいくつ指定管理の図書館があるのか。</p>
辻井図書館長	<p>駒ヶ根、南牧村、阿南が指定管理だと思う。</p>
池田委員	<p>どういうときに図書館に行ったかと考えると、学生の時に勉強しに行ったりはした。ただ仕事をするとなかなか行かない。どうなれば行くかと考えると、子供に連れられて行ったりはするように思う。安心していつでも行けると考えると、市で運営していただけた方がいいのかなと思う。</p>
原委員	<p>参考までに前任の学校図書館で民間委託の検討をしたことがあった。業者に見積もっていただいたところ、県の希望額よりオーバーしてしまい直営</p>

	の方が安かったということで委託はなしになったことがある。
両角委員	公民協働で読書活動している読み一む in ちのから言えば、直営がいいように思う。複合施設でも例えばレストランはちがう業者が入ってということならアリなのではないかと思う。
藤森生涯学習課長	将来的には、単独から単独は今後の時代は合わないのではないかと思う。単独から複合というような時代になってくるのではと思う。
田村委員	指定管理者なら収益を求めることは当たり前のことだから、そこで図書館のあり方や図書館の理想とするものということを考えると、難しいのかなと思う。指定管理者のメリットとは何か。
矢崎委員長	全国に指定管理者を受けているところがあって、そこの行事やノウハウなどが共有できている。そういったところはうらやましいと思った。民間の良さのようなものをうまく取り入れることができれば、指定管理者はしなくていいと思う。
辻井図書館長	地元書店との関係が難しくなることも考えられる。
田村委員	直営のメリットは何か。
矢崎委員長	市の施策に合った流れができるなどがある。
平出生涯学習部長	この立地条件で呑めるかというところもあると思う。
藤森生涯学習課長	メリットデメリットをよく見て、メリットの中でもこの状態の中でも取り組んでいけるものがあれば指定管理者にする必要はないと思う。
田村委員	直営でもいろんなところから良いノウハウを研修でもいいから持ってくることができれば、茅野市の読書活動としては一番なのではないかと思う。
藤森生涯学習課長	とりあえず直営という結論を出させていただき、メリットデメリットを整理して臨時協議会を開かせていただければと思う。